



## 言葉凸凹 赤と青

赤と青はコーポレートカラーとして最も人気のある色として看板や印刷物やテレビで頻繁に目にする配色である。

国旗の色としても白との組合せで複数の国で用いられている。国旗の色にはそれぞれに象徴する意味が与えられており、色を与えるイメージの手がかりになっている。

赤のイメージは赤文字で、青のイメージは青文字で表現してみよう。

大韓民国は、陽・太陽・天・昼・男と陰・月・地・夜・女、フィリピン共和国は、果敢と愛国心、タイ王国は、国民の生命と王家、オランダ王国は、国民の勇気と祖国への忠誠心、フランス共和国は、博愛と自由、ロシア連邦は、愛・平等・大ロシアと名誉・独立・小ロシア、パナマ共和国は、愛国者の血とカリブ海・太平洋、キューバ共和国は同胞愛・独立の血と主要3地域、パラグアイ共和国は、独立のための血と空の清浄を象徴している。

アメリカ合衆国は独立13州の数を赤と白の帯の数で、全ての州の数を青地に配した星の数で表したり、イギリスのユニオンジャックのように、イングランド・スコットランド・アイルランドの3国の旗を重ねて3色配色にした機械的な例も見られる。 (永田泰弘)

## ●色名雑感 萌黄色と浅葱色

浅黄色という色名はご存知ですね。アサギイロと読みます。浅い黄色ですから、薄黄色。江戸時代だと玉子色とも言いました。系統色名で表すと「やわらかい黄赤」に該当する色です。

同じ発音のアサギイロと読む色名の浅葱色もご存知ですね。浅葱は野菜のネギの色に似た、藍染による色を指し、系統色名で「明るい緑みの青」に当たる色です。

玉子色とは全く違う色です。会話で使う時は気をつけてください。

萌黄色という色名もご存知ですね。モエギイロと読みます。春に草木が萌え出た時の若草色と言っていいでしょう。系統色名でいうと「つよい黄緑」に当たります。

浅葱色という色名に出会ったことがありますか？。浅葱色は江戸時代から文献に出ている色名ですが、これは江戸時代の人々が浅葱色の文字表現に惹かれて、萌黄色を間違えて記述した、誤植とも言える表現です。

萌黄色を浅葱色と書くのは間違いですし、浅葱色を浅黄色と書くのも間違いです。気をつけましょう。

色名雑感と題して、原稿を募集していますので、投稿してください。 (永田泰弘)

## ●季語集の中の色名ー10

### ●仲秋の季語 (続き)

紫蘇の実 (しそのみ)：長い穂に実がつく。香気強く生のまま食べるし塩漬けにもする。

### ●晩秋の季語

紅葉狩り (もみじがり)：紅葉の美しさを見に行くこと。

紅葉たなご (もみじたなご)：タナゴはフナよりずっと小さい、秋になると腹に紅色を帯びてくる淡水魚である。

青蜜柑 (あをみかん)：青いうちに市場にでる蜜柑。

萬年青の実 (おもとのみ)：萬年青は葉を賞翫するものであるが、葉の本に真紅の実を累々と結ぶ。色の対照が美しい。

白菊 (しらぎく)：白い花の菊。清浄な感じである。

黄菊 (きぎく)：黄色の花。大輪なのは高貴な感じである。普通に最も多い色。

紅菊 (べにぎく)：赤い花の菊。臙脂色が多い。

紫苑 (しをん)：高さ五六尺になって、茎の上に野菊に似た青紫色の花をたくさんつける。(しおに)

秋は、四季の中で季語が最も少ない季節になっている。収穫の秋と言いながら日数も行事も少ないのが理由であろうか。(永田泰弘)